

平成18年度第3回中原区区民会議

平成18年度第3回中原区区民会議が開催されました。

当日は「地域の中の商店街」をテーマに、モトスミ・プレーメン通り商店街とモトスミ・オズ通り商店街における地域での活動を紹介したビデオと、この両商店街からの発表を受け、地域と商店街の関わりについて活発な議論が交わされました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成19年1月23日(水)午後2時から午後4時31分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 15人

会議次第

- ・開会
- ・会議録確認委員の選任
- ・報告「第3回アメリカンフットボールワールドカップ」について
- ・議題「地域の中の商店街～地域と商店街の新たな連携を考える～」
- ・閉会

議題検討における活動事例報告と主な委員意見

<モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 伊藤博理事長から報告>

- ・商店街が環境に取り組んでいることに対し、平成18年12月、環境大臣表彰を受けた。
- ・プレーメンという名称の使用許可を受けた際に、プレーメンにあるロイドパサージュという商店街との友好関係から環境の取り組みが生まれてきた。
- ・平成7年にエコバッグを導入した。プレーメンから輸入した布製のエコバッグを商店街で販売している。また国際交流センターで商店街の取り組む環境問題について国際シンポジウムを開催した。
- ・以前商店街にペットボトルと空き缶の回収機を設置したが、環境局からなぜ商店街振興に予算を出さなくてはならないのか、との意義が出たことがあった。
- ・現在市ではペットボトルや空き缶を分別しないまま回収しているため、リサイクルするのに手間も費用もかかっている。商店街できちんと収集すれば手間が省け、また資源の持ち寄りに対してポイントを差し上げることで地域通貨につながり、ひいては商店街の活性化につながる。
- ・一店一エコ運動は、平成15年に市の「頑張れモデル商店街事業」の中で、どこの商

店街でもできる、お金をかけずにできるということで始めた。現在70店舗が取り組んでいる。

- ・一店一エコ運動では、住吉小学校と井田小学校の子どもたちが「エコ調査隊」として夏休みにそれぞれのお店にチェックに行っている。お店では店先のグリーンのポスターに取り組んでいることを掲げ、その取り組み評価について調査隊は店にぶつけるため、各店は緊張感を持って運動に取り組んでいる。
- ・商店街は、基本的には商店街の会員の会費で成り立っている。プレーメンの組合加入率はかなり高いが100%ではない。大手ナショナルチェーンの中には、組合費、街路灯の電気代一つ払おうとしないところもある。これからの商店街というのは、安全・安心のまちづくり等にお金がかかる。大手は地元は何の貢献もせず、商店街がさびれば一番先に出て行く。そういう現状があることを認識していただいて説明を終わります。

<モトスミ・オズ通り商店街振興組合 中野勝久副理事長・事業部長から報告>

- ・オズ通り商店街では、空き店舗を「街なかボランティア・ピース」とし、寺子屋等の事業を平成14年から始めた。たまたま慶應大学の学生と出会い、私から学生にお願いして一緒に活動するようになった。
- ・商店街とボランティアをどう結びつけるか、学生たちと話を進め、子どもを中心にした異世代間交流に取り組むこととなった。
- ・寺子屋は小学生を対象に、毎週土曜の午後2時から4時までに行っている。子どもたちは100円を持ってきて、勉強が終わった後みんなでお菓子やジュースを買って、みんなでお話しながら楽しくお別れしている。
- ・学生たちは防犯を兼ねて商店街のごみ拾いを行っている。県の補助で揃いのジャンパーを作った。
- ・7月の七夕イベントは全て学生たちに任せている。子どもたちの絵を商店街の真ん中に展示してまちなか展覧会を開いたり、カンボジアの子どもへの支援として文房具を集めたりしている。
- ・学生と活動しているうちに大学から話しがくるようになった。平成17年の1年間は商学部のゼミと一緒に東急東横線の高架化前後の変化について調査した。また、「子ども商店街」というイベントを開く際には慶應大学に前日にお金に関する講義をしてもらい、終わった後には大学の食堂で親子で食事をした。
- ・平日は一時保育事業も行った。最初は無料だったが、だんだん厳しくなってきたため、一般は1時間1,000円、商店街への来客については1時間500円にした。その中で子どもの救急医療の仕方とか、パンの焼き方等の講習を行った。
- ・しかしながら、この「街なかボランティア・ピース」がマンション建設のため平成18年12月に明け渡しとなり、子育て支援は全部やめることになった。寺子屋は商店

街の事務所を改造して続けることができるようになった。

- ・寺子屋を出張させることを考えている。また、知り合いにラグビー協会の方がいるので、ラグビーも一緒にやりたい。
- ・オズファミリークラブを会員制でつくった。携帯電話で空メールを打つとすぐに会員になれる。現在、1,000人ほどの会員がいる。これを利用して、災害時には、水の供給や炊き出し等の情報を供給することができる。
- ・地域の人と結びついて、顔を見たらあいさつをし、昔の長屋みたいな、そんな商店街にできたらいいかな、と思っている。

< 委員からの主な意見・提案 >

- ・商店街について遠慮なく、これからこういう商店街を目指してほしい等、指導、指摘、意見を遠慮なくいただきたい。
- ・寺子屋を開催している事務所の賃料はいくらか。
月12万円。(中野副理事長)
- ・カウンセリング事業では、何人のカウンセラーで実施しているのか。
お年寄りを対象に国際交流センターと一緒に実施した。(中野副理事長)
- ・プレーメン通りのマイバッグ持参運動、これは中原区、川崎市全域に言えること。取り組みやすく、環境問題にもいい。
- ・東横線が高架になり、プレーメンとオズの東西が仲良く一緒に動き出したことをうれしく思っている。地元新丸子でも高架により東西の商店街でいい意味での行き来の激しさがあがり、商店街に活気がある。区全体を見るとその場その場の商店街でイベントを行っているため、ばらばらの感じがする。地域の住民としたら、身近な商店街同士が一つになる形で、まちとして売り出せば商店街の大きさを市民にPRできると思う。
- ・商店街同士は、いい意味でも悪い意味でもライバル意識があるため、なかなか上手く機能しないというのが実情。新城の商店街では夏のイベントを一本化するようになって30年近くなり、今では新城の夏の風物詩になっている感じである。
- ・小杉の再開発で新住民が相当入ってくると、旧商店街はもうちょっと仲良くしないと押されてくるのではないか。ぜひ、プレーメンやオズのノウハウを採り入れてほしい。
- ・両商店街は地域の商店街に全て参加してもらっており、地域との連携が非常によく保たれている。
- ・商店街では商品や自転車が路上にはみ出し、歩行者が困惑している。歩行者に迷惑をかけない方法をとってもらいたい。
- ・現在小杉地区で放置自転車の整理活動を行っているが、中原区は自転車に乗りやすいまちであり、また生活の道具として自転車は便利。昨年度からは歩いて健康維持しよう、呼びかけている。委員のみなさんから区民のみなさんに、まちの中を安心して通れるようなまちになるよう、協力をお願いしたい。

- ・商店のはみ出し陳列は、道路幅員が狭くなることで危険を伴い、また救急車両の通行に支障をきたすことにもつながることから、商店街の大きな課題になっている。
- ・赤ちゃんを背負いながら買い物に行った時に、お店の人に声をかけてもらってとてもあたたかい雰囲気があった。最近は大型店が増え、昔、例えば豆腐屋さんだったら朝3時、4時から商売をしていたというような職業観を子どもたちに感じ取ってもらうことが減ってきた。ぜひ商店街の方々に、地元の小中学生、高校生、大学生たちと触れ合いができるよう頑張ってもらいたい。
- ・お年寄りや子どもたち、足の悪い方などのために商店が中継点になって配達できるようなことができないか。また、昔の御用聞きのように電話一本で持ってきてくれるようなこともできないか。
- ・子育て中のお母さんから聞いた話だと、2、3人の子どもを育てていると買い物も美容院も行けない状況があるようなので、寺子屋のように有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思った。
- ・商店街が活性化することによって、そこに住んでいる人たちにとっても暮らしやすいまちになる。
- ・市や国からお願いしたり、法制化したりして、コンビニなど大きな企業にも組合に入ってもらいたい。
- ・開業医は全員商店街の組合に入っているだろうか。街路灯維持のための値段は結構かかる。入っていないようだったら、医師会に申し入れをしてください。
- ・寺子屋は子どもたちを育てるのに非常にいい方法なのでぜひ進めていただきたいし、うちの商店街でも考えてみたい。
- ・少子高齢化、女性の社会進出が進む中で、子どもの一時預かりは非常に重要。
- ・私の町会の商店街のあるブティックでは、店主が毎日店の奥で認知症のお年寄りの話し相手をしている。また、ある食料品店では、調理があまりできないお年寄りのために一切れのお魚でもちゃんと調理して、時にはその家まで届けている。こういった小さな活動も行われている。
- ・新丸子駅から等々力まで案内サインを設置すると聞いている。サインに商店街の名前を入れるなどすれば商店街の活性化になるのではないか。
- ・市の「2010プラン」に商店街の活性化はあるのか。商店街の活性化、また地域の住民との連携を保つことについての窓口を各区でつくった方がいい。
地域のいろいろな課題を受けとめるべき区役所として努力をしていきたい。また、今日の会議については、経済局商業観光課にしっかり伝えたいと思っている。(区長)
- ・両商店街の努力であれだけいい商店街ができたのだと思う。私は今オーストラリアの学生のカウンセラーをしており、彼女はマイ箸、マイバッグ、マイペット(ボトル)の3点を実践している。ビデオの中で紹介のあった飲食店での塗り箸については、そ

の方針を貫いてほしいし、また我々も何とか支援したい。

- ・ブレイメンでも140店のうち70店ほどしか加盟していないとき。川崎市でも、中原区だけでもいいので加盟率を上げるバックアップをしてほしい。
- ・川崎が決して美しいまちとは思っていない。ペットボトルや空き缶の回収機の導入が、行政サイドの縦割りでストップがかけられたとすれば非常に残念。
- ・商店が組合に入ることは、例えば居酒屋が飲酒運転のことを気にしたり、カラオケ店が小さい子の入店を気にしたりすることになるので、地域の安全のためにも大事なことでと思う。
- ・商品や自転車のはみ出しがある店は意外と組合に加入してくれていない。取り締まりをしてもその時だけになってしまう。ブレイメン商店街は幅的には歩いて回るのに非常にいいが、いざ自転車の問題となると交通の障害が出ている。一昨年、商店街をリニューアルしたばかりだが、現在まちづくり協議会を設置して20年、30年後を目指したまちづくりに入っている。電線がなかったり、店がセットバックして店頭のカフェテラスがあったりするきれいなまちづくりを進めている。(伊藤理事長)
- ・今、商店街が抱えている一番大きな問題は、組合への加入。商店街に防犯カメラ一つ設置するにも非常にお金がかかる。都内では20区ほどが区条例で大型店、チェーン店の商店街加入を定めている。川崎市には条例がないため、大手によっては同じ土俵に上がってこない。ある大手は条例ができたなら入るとはっきり言っている。一店一エコ運動にしても、大手に対し同じ土俵の上に立って地球環境のことを一緒に考えましょう、といった投げかけをしている。(伊藤理事長)
- ・私の会社のことだが、地域の人と交流を深くしたいと、宮内小学校の児童に会社でつくっているものを見せる機会があった。子どもたちの目の輝きはすばらしかった。後日、子どもたちの作文集が届けられ、地域と交流してよかったと思っている。ほかの工場の経営者にもこんな話をどンドンして、工場も仲間に入れてもらって、これから区の発展のために尽くしていきたい。
- ・バリアフリー調査を行った時に、ある商店から、はみ見出し陳列について外から言ってくれるとやりやすい、という話があった。町内会でまとめて直接言えば、受ける方も受けとってもらえるのではないか。
- ・私の娘は、買い物は川崎駅前の大型店に行っている。少し時間がつぶせるような、そういう商店づくり、商店街づくりがこれからあってほしい。
- ・中原区でも例えば「デートスポット探検隊」や「のぼりとゆうえん隊」のような活動、まちの活性化のための活動をぜひ商店街、若い人たちと一緒にやっていきたい。
- ・地域に目を向けるようなことが製造業を含めて商店街に出てきていると思う。商売はもちろん基本だが、地域と関わりを持つということの一つ一つの店が考えてほしい。例えば、「一店いいこと運動」みたいなことを商店街でまとめて情報発信してもらえると地域の人は行ってみたいと思うようになるのではないか。